

## 医療面接の基礎

責任者・コーディネーター	人間科学科心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 准教授		
担当講座・学科(分野)	人間科学科心理学・行動科学分野		
担当教員	藤澤 美穂 准教授、香川 由美 助教		
対象学年	1	区分・時間数	講義 15 時間
期間	後期		

### ・学修方針（講義概要等）

医療の担い手の一員として、患者、同僚、他職種専門職や地域社会との信頼関係を確立するためには、相手のこころや立場、価値観等の理解と尊重が必要となる。本講義では、医療面接に必要な態度と基本的技法を修得するために、コミュニケーションの基礎、行動科学理論を用いたヘルスコミュニケーション、患者の特性に応じた医療面接等について学ぶ。さらに、基本的な理論を学んだ後、学生同士によるロールプレイを行い、理論の理解を深めることによって医療面接を効果的に行う基礎を身につける。

### ・教育成果（アウトカム）

1. コミュニケーションと医療面接の基礎を学修することで、対人理解・対人援助に関する基本的な知識と態度を習得し、相手の立場に立った援助ができるようになる。
2. 他者との信頼関係や他者配慮の態度について学修することで、チーム医療に寄与できるコミュニケーション能力を身に付け、実践することが出来る。
3. ストレスマネジメント概念を理解することで、自身のメンタルヘルスの保持増進のため必要な行動をとることが出来る。

(ディプロマポリシー：1,2,4,5)

### ・到達目標（SBO）

1. 対人理解に関する基本的態度を説明できる。
2. 医療面接に用いられる基本的技術について説明できる。
3. カウンセリングに求められる視点を理解し、必要な態度を説明できる。
4. ヘルスコミュニケーションについて説明できる。
5. 行動科学理論をヘルスコミュニケーションに応用する方法について説明できる。
6. 相手の心理状態を理解し、関わりを調整する必要性について理解し、説明できる。
7. ストレスマネジメントとセルフケアの重要性について理解し、説明できる。
8. 多職種連携のために必要なコミュニケーションを理解し、説明できる。

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
9/13	金	1	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	<p>医療者・患者関係の理解とカウンセリングの基礎</p> <p>【ICT(WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療者と患者の信頼関係を築くコミュニケーションについて説明できる。</li> <li>2. 広義/狭義のカウンセリングについて説明できる。</li> <li>3. カウンセリングにおいては、なぜ「クライアント」と称するのかについて、説明できる。</li> <li>4. カウンセリングが成立する条件について説明できる。</li> <li>5. カウンセリングにおける倫理について説明できる。</li> <li>6. カウンセラーの基本的態度とラポールについて、説明できる。</li> </ol> <p>事前学修：「心理学」の「臨床心理学の基礎」で学んだ内容を復習する。            事後学修：WebClassでの確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける。            [C-1-1-4, C-1-2-3, C-1-2-4, C-1-3-5, E-2-1-1-2]</p>
9/20	金	1	心理学・ 行動科学分野	香川 由美 助教	<p>コミュニケーションの基礎</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションの種類を列挙できる。</li> <li>2. メッセージとメタメッセージについて説明できる。</li> <li>3. コンテントとコンテクストについて説明できる。</li> <li>4. ミスコミュニケーションについて説明できる。</li> <li>5. コミュニケーションの機能と役割について説明できる。</li> </ol> <p>事前学修：教科書 14～20 ページを読む。            事後学修：講義資料を復習する。            [C-3-1-2, D-2-1-1-1, E-2-1-1-2]</p>

9/27	金	1	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂 准教授 香川 由美 助教	<p>カウンセリングスキル(1)関係づくり、傾聴 【アクティブラーニング】 【CT (WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>傾聴する態度がなぜ必要かを述べることができる。</li> <li>自分の話し方と聞き方のくせについて検討できる。</li> <li>対話している相手の感情の動きを推測できる。</li> <li>推測した感情を自然な言葉で相手に返すことができる。</li> <li>明確化の技法を用いた応答ができる。 いた応答ができる。</li> </ol> <p>事前学修：傾聴する態度について教科書 47～52 ページを読んで調べる。 事後学修：WebClass の#3 ワークに取り組む。講義資料を復習する。 [D-2-1-1-2,E-2-1-1-2]</p>
10/18	金	1	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂 准教授 香川 由美 助教	<p>カウンセリングスキル(2)受容・共感 【アクティブラーニング】 【CT (WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>共感の段階について説明できる。</li> <li>クライアントの性格的な傾向を推測できる。</li> <li>クライアントに共感できる。</li> </ol> <p>事前学修：共感について教科書 52～56 ページを読んで調べる。 事後学修：WebClass の#4 ワークに取り組む。講義資料を復習する。 [D-4-3-3,E-2-1-1-2]</p>
10/25	金	1	心理学・ 行動科学分野	香川 由美 助教	<p>ヘルスコミュニケーション理論を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>カウンセリングに適したポジショニングを説明できる。</li> <li>ヘルスコミュニケーションの目的を説明できる。</li> <li>ヘルスコミュニケーションの方法について説明できる。</li> </ol> <p>事前学修：「行動科学」の「ヘルスリテラシーとヘルスコミュニケーション」で学んだ内容を確認する。 事後学修：講義資料を復習する。 [C-5-3, C-5-6, E-2-1-1-3]</p>

11/1	金	1	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂 准教授 香川 由美 助教	<p>ヘルスコミュニケーションへの行動科学諸理論の応用（1）</p> <p>【アクティブラーニング】【CT(WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 模擬事例に対して行動科学諸理論を適用した検討をおこない、介入すべき変数を抽出できる。</li> <li>2. 抽出した変数について、介入計画を立てることができる。</li> <li>3. 介入計画に基づいてヘルスコミュニケーションできる。</li> </ol> <p>事前学修：前回講義資料を用いて行動科学諸理論を確認する。</p> <p>事後学修：WebClass の#6 ワークに取り組む。講義資料を復習する。 [C-5-3, C-5-6,E-2-1-1-3, E-2-1-1-4]</p>
11/8	金	1	心理学・ 行動科学分野	香川 由美 助教	<p>ヘルスコミュニケーションへの行動科学諸理論の応用（2）と態度分析</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヘルスコミュニケーションにおける留意点を述べることができる。</li> <li>2. 解釈モデルについて説明できる</li> <li>3. LEARN Model について説明できる。</li> <li>4. Porter の態度類型について説明できる。</li> <li>5. 医療面接における態度分析のポイントについて説明できる。</li> </ol> <p>事前学修：これまでの講義資料を用いて行動科学に関する諸理論を確認し、前回講義で自身が作成した介入計画の改善案を列挙する。</p> <p>事後学修：講義資料を復習する。 [C-5-3, C-5-6,E-2-1-1-4]</p>

11/15	金	1	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	<p>患者・家族の心理・社会的背景に配慮した関わり</p> <p>【双方向授業】【ICT(WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生物-心理-社会モデルでのクライアントの理解について、説明できる。</li> <li>2. クライアントの主訴に関連する情報として、何を聞く必要があるか、説明できる。</li> <li>3. ジェノグラムを記載できる。</li> </ol> <p>事前学修：教科書 65～75 ページを読んで、面接で聞き出すべきことについてまとめる。</p> <p>事後学修：WebClass の#8 ワークに取り組む。講義資料を復習する。</p> <p>形成的評価：WebClass による「理解度チェック」に取り組み、結果のフィードバックを受ける。</p> <p>[C-4-3-5, D-2-1-1-3, D-2-1-2-3, E-2-1-1-5]</p>
11/22	金	1	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	<p>トラウマティックストレスの理解とストレスマネジメント</p> <p>【ICT(Mentimeter,WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ストレスマネジメントの重要性を理解し、ポイントを挙げるができる。</li> <li>2. 災害等のトラウマティックな出来事後のストレス反応と悲嘆 (grief) について、説明できる。</li> <li>3. 心理教育の効果と重要性について、説明できる。</li> <li>4. 惨事ストレスを理解し、支援者のストレスケアのポイントを挙げるができる。</li> </ol> <p>事前学修：「心理学」の「ストレスの心理学」で学んだ内容を復習する。災害時における歯科医師の活動について、インターネットで調べる。</p> <p>事後学修：WebClass での確認テストに取り組む、結果のフィードバックを受ける。</p> <p>[C-3-3-1, C-4-3-7]</p>

11/29	金	1	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	<p>医療面接のまとめ、多職種連携における職種間コミュニケーション</p> <p>【双方向授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療面接の役割について説明できる。</li> <li>2. 医療面接のステップを説明できる。</li> <li>3. クライアントを詳しく理解するために必要な情報を引き出すための質問を具体的に挙げるができる。</li> <li>4. クライアントからの質問に対し、その意図や背景を考慮した応答をすることができる。</li> <li>5. 多職種連携をおこなう上で必要となる職種間コミュニケーションの要点を述べるができる。</li> </ol> <p>事前学修：教科書 84～89 ページを読み、面接で生じる問題についてまとめる。これまでの講義内容を振り返る。 事後学修：WebClass の#10 ワークに取り組む。患者中心の医療の実現のために果たす医療面接の役割について理解する。 [C-1-3-1, D-4-3-3, E-2-1-1-6, E-2-1-1-7]</p>
-------	---	---	------------	-----------	---

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	はじめての医療面接 コミュニケーション技法とその学び方	斎藤清二	医学書院	2000

・成績評価方法

総括評価：後期試験成績を 70%、ワーク（課題）への取り組みと提出物を 20%、確認テスト（1 回目、9 回目）の成績を 10%として評価する。後期試験は MCQ：多肢選択式問題と論述問題を出題する。ワーク（課題）への取り組みは、提出（入力）された回答内容を対象とし、評価については初回講義で示す「ワーク（課題）評価基準」に従い採点する。

形成的評価：8 回目の講義にて WebClass より「理解度チェック」を実施し、理解度・到達度を確認する。理解度チェックの結果は WebClass からフィードバックする。理解度チェックの結果は成績には反映しない。

・特記事項・その他

本教科では、一般的な講義に加えてアクティブラーニングを行う。アクティブラーニングは感染予防を徹底して実施し、設定した課題にグループワーク、ペアワーク、ロールプレイ等で取り組むが、状況に応じて方法を適宜変更する。また、課題については講義時間内にまとめを作成し、当日中にWebClassに提出することを求める。課題についてのフィードバックは内容に応じて講義内で適宜実施する。

WebClassでの確認テストを実施する回を設定する。結果と解答はWebClassにてフィードバックする。

講義時間中に、各自のデバイスから参加できるリアルタイムフィードバックツールを用いて他学生の考えを確認、共有する。Mentimeter等を使用する予定のため、スマートフォン、タブレット、PCのいずれでも参加可能である。

講義については、シラバスに記載されている講義内容／到達目標を確認し、指定された事前学修課題、及び教科書該当箇所を読み予習をおこなった上で臨むこと。講義中、事前学修内容をWebClassに入力する時間を設ける。事後学修については毎回配布される講義資料と教科書等を用いておこなうこと。

各回講義に対する事前学修の時間は30分以上を要する。各回講義に対する事後学修の時間は最低90分以上を要する。定期試験前には10時間程度の総復習の時間を確保する必要がある。

[事前学修・事後学修のポイント]

事前学修：教科書を中心に予習をすること。参考書、その他の資料に基づいた学修も推奨する。  
事後学修：わからなかった内容は、講義にて示した教科書の該当箇所を確認し理解を深めること。

学生からの授業に対する意見や質問については、WebClassのメッセージから随時受け付ける。授業内容に関する質問・要望は、翌回の講義にて追加説明をおこなう。

定期試験後にフィードバックとしてWebClassを通じた解説もしくは補講を実施する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型 PC (Safari pro FJY-00014)	1	講義資料の提示
講義	ノート型 PC (MacBook Air MD711J/A)	1	講義資料の提示
講義	プロジェクター	1	講義資料・教材の提示
講義	DVD(BR)プレーヤー	1	教材の提示
講義	書画カメラ	1	教材の提示
講義	デスクトップ型 PC (EPSON MR4800E)	1	講義資料の作成
講義	デスクトップ型 PC (iMac (Retina 5K, 27-inch, 2017))	1	講義資料の作成

